

タイトル:平成 23(2011)年度 教育セミナー

日時:平成 23 年 9 月 17 日(土)~20 日(火)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

稲山 円(東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程)

私は東京外国語大学大学院博士後期課程に在籍し、日頃から AA 研でご指導頂いているにも関わらず、日程の関係などでこれまで参加することが出来ず、今回初めて中東☆イスラーム教育セミナーに参加させて頂きました。

教育セミナーに参加する上で一番楽しみにしていたのは、他大学の先生方のセミナーでした。私はイランのテヘラン市における現地調査に基づき、女性の宗教実践を研究テーマとしているので、特に、鷹木先生のマグリブ地域の人類学的研究に関するセミナーや、同じくイランを専門とする富田先生のセミナーなどは、期待を裏切らず、興味深いお話が伺え大変勉強させて頂きました。またどの先生方のセミナーでも、その内容の濃さだけでなく、ご自身の研究に対する熱意にも圧倒させられました。同時に、研究を進める上での葛藤なども時折垣間見ることができ、素晴らしい研究成果を挙げていらっしゃる先生方も、悩みながら研究生活を送ってこられたのだという妙な親近感が湧き、これからの研究の励みにもなりました。

さらに、AA 研で身近にいなながらも、実のところじっくりとお話を伺ったことがなかった飯塚先生や高松先生のセミナーにも学ぶところが多かったです。飯塚先生の、イスラーム教徒がいる地域すべてが研究対象となり得るような研究の幅の広さを持ちながらも、その中でのイスラームの多様性を見失わない視点や、高松先生の研究対象に対する緻密さや資料に対する批判精神などは、私を含め全ての受講生の参考になったのではないかと思います。

受講生の方々の発表は、自分の研究と近いものはありませんでしたが、研究対象の地域やテーマ、研究方法などが異なっても、「何か自分の研究のヒントになるところはないだろうか」という気持ちで聞くように努めました。発表自体の中に興味を惹かれる点があったり、知識として勉強になる部分があったのはもちろんですが、それぞれの発表に対する先生方や他の受講生の方々からの質問やコメントの中には、そのまま自分の研究に対する指摘ともとれるいくつかの重要な気付きがあり、大変勉強になりました。今回私は発表しませんが、中東やイスラームを研究対象とする学生にとってこの教育セミナーは、発表することによって研究の問題点を認識し軌道修正する貴重な機会となることは間違いありませんが、発表しなくても十分に有益なセミナーであると言えます。本セミナーに携わる AA 研の先生方、セミナーを担当した先生方、事務局の千葉さん、参加した受講生のみなさん、ありがとうございました。

指宿 美穂(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)

夏季休業期間も残り僅か、この休暇中に着実な成果を手にして、後期からは本格的に論文執筆に取り掛かりたい…このような気持ちで参加させていただいた4日間は、私に大きな衝撃とさらに大きな収穫をもたらしてくれました。

学部時代からトルコ語を専攻し、大学院進学後も現代トルコに関する研究を続ける私にとって、今までの研究環境はとても甘やかされた環境でした。同じような研究テーマを掲げる学生も周囲にはおらず、刺激を受けることも、自分を奮い立たせることもない諾々とした1年間が過ぎ、これではいけないと強く自覚したことが今回の参加に繋がりました。

本来ならば修士2年目として研究について発表させていただくべきところ、研究の方向性や研究テーマそのものへの悩みなど個人的な理由で原稿を仕上げることができず、恥ずかしながら今回は聴講生として参加させていただきました。それ故に、同世代の受講生らによる発表は非常に刺激的であり、それぞれの研究に感銘を受けるとともに、私の心にかかった霞が少しずつ晴れていくのを感じました。

特に、昨年末から続く所謂「アラブの春」と呼ばれる一連の出来事に関して、鷹木恵子先生によるチュニジアの事例は非常に印象深いお話でした。長年に亘って見つめ続けてきたものが一瞬で崩壊する衝撃と、それを乗り越えて新たに再構築していく研究者としての真摯な姿勢を教えて頂くとともに、流動的で捉えることのできない社会こそが「意味の網目」であり、それを読み解き、再び紡ぐ縊りとなるのが文化や宗教といった人間の依りなのだと知りました。

また、今回のセミナーでは「現代」という時代を考える上で避けることのできない「グローバル化」という現象についても、改めて考える機会を得ました。飯塚正人先生の講義では、地域研究の限界を思い知らされるとともに、グローバル化が進む程に人々のアイデンティティの中に占める「nation」の割合が増す現代社会における地域研究の可能性を実感しました。小松久男先生には、「中央ユーラシア地域」という新たな地域概念を掲げることで、国境線やこれまでの中央アジア研究の歴史に囚われない、地域の文化や歴史などの共通点を軸とした手法による新たな地域研究の在り方についてご教授頂きました。また情報のグローバル化という意味では、某サイトの侮りがたし有用性と、情報の渦を根性でかいくぐる研究者魂を力説して下さった高松洋一先生のお話は、まさに情報の渦に飲み込まれていた私に喝を入れてくださいました。

最後になりましたが、お忙しい中私たちに豊富な知識と経験からご講義・ご指南して下さった先生方々と、メールでのやり取りを始め私たちのお世話をしてくださった事務局の千葉淑子さんに深く感謝の意を申し上げます。本当に有難うございました。

谷 憲一(一橋大学大学院社会学研究科)

中東☆イスラーム教育セミナーに参加して

このセミナーに参加したきっかけは、私が所属する人類学の研究室のドアに張られていたポスターを見たことである。参加費も無料で、中東、あるいはイスラームに関する様々な分野の講師陣の講義を聴くことができるというのは魅力的であり、これぞ福音、と感じた。というのも、人類学を専攻し、イランをフィールドにしようと思いつながら、私が通っている大学には中東やイスラームに関連するような講義が乏しいからだ。

「研究に休みなし」という言葉の如く、カレンダー上の3連休と悉く重なっているという日程の中、あっという間に過ぎた4日間であった。受講生の研究発表では、修士論文提出を控えた人や博士論文を構想中の人たちが40分という時間の中で発表し、受講生や講師陣、AA研のスタッフによる質疑応答、コメントが行われた。受講生の発表は、それぞれ地域や分野が異なっており、非常に興味深い発表であった。しかし、さらにそれに対する講師陣、スタッフのコメントが大変興味深いものであった。端的に言えば「どうしたら研究として論文の形になるのか」という問いに、それぞれの先生方が、様々な観点からコメントする様子を間近で見ることによって、自分が研究する上で意識しなければならない点や、他人の研究発表へのコメントの仕方など学ぶべきところは多かった。今年は発表することができなかったが、是非来年も参加し、今度は自分の研究発表をしようと考えている。

セミナーの後は、非公式の飲み会も含め先生方と飲んだのが3回、受講生の有志で飲んだのが1回であった。飲み会では中東、イスラーム研究者業界の話に始まり、先生方の研究のきっかけや研究秘話などを伺うことができ、またイラン研究をする上での指南もいただいた。また、著作を読むだけでは見えてこない、研究者個人の人柄やお酒の飲み方などを知ることができたのもよい経験であるように思う。中東、イスラーム研究を志す同年代の学生と知り合うことができたのも、大きな収穫であった。

濱田 裕樹(東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士前期課程)

平成 23 年度の「中東☆イスラーム教育セミナー」に参加させていただきました。セミナーでは東京外国語大学に在籍していても、普段お目にかかる機会の少ないAA研の先生方や他大学からお越しの先生方、そして他大学から参加された学生の方々と、研究発表やセミナー、懇親会を通じて交流を持つことが出来ました。セミナーの行われた四日間は、ただただ感謝させられる事ばかりでしたが、中でも私が強く、そして痛切に感じたことは言葉の重要性です。

今回私は研究発表とセミナーを拝聴させていただきただけでしたが、行われた発表や質疑応答は、発表をしていない私にとっても大変意義深いものでした。それと言うのも、先生方の素晴らしいセミナーや、他大学の学生の方々のレベルの高い発表、そしてそれに対する先生方からの厳しくも的確な質問や指摘は、研究を行い論文にまとめていく過程において「どういった意図で言葉や用語を用いるのか」、「そしてその言葉を使用した場合、いかなる印象や解釈を人に与えるのか」、「さらにその言葉を受け取った人が、自分の意図とは異なって理解した場合を想定し、それを補い修正しうる次の言葉を用意出来るか」ということを、間接的に絶えず自分にも突きつけられていたからです。それは『論語』の一節「傳不習乎」ではありませんが、本や論文から言葉を借りたまま、その意味や概念を自分の頭できちんと考え理解することなく、安易に自分は使用していなかったかと、研究報告やセミナー中は勿論のこと、帰りの電車の中でも非常に考えさせられました。

一方で休憩や昼食の時間は、終始和やかな雰囲気であり、「アラブの春」に関する最新の動向やご意見を先生方がお話し下さったり、日頃の研究の疑問点を学生が先生方に質問したり出来る大変貴重な機会でした。また日中にイスラームの奥深さを垣間見た後に開かれる、先生方の懐の深さを知ることが出来る親睦会は、研究者としての先生方とはまた違った意外な一面を知る場でもありました。

今回のセミナーで得られた沢山のことを無駄にすることなく、今後も研究に勤しんでいきたいと思えます。

最後になりますが、セミナー受講中は先生方、並びに事務局の千葉淑子さんには大変お世話になりました。この場を借りて深く御礼申し上げます。